

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 津波「福銀ショック」

(遁走か挑戦か)

皮肉なことに、この10年は(「失われた10年」等と呼ばれるが)銀行業にとって最も恵まれた経営環境にあった。長短金利が下がり、しかも短期金利が限りなくゼロに近づく中で、短期で調達して長期で資金を貸出す金融機関には絶好の追い風が吹いた(吹かせた?)。ここ数年、過去最高レベルの業務純益(本業での儲け)を計上する銀行が続出した背景には、経営努力がどうこうよりも恵まれた経営環境が幸いしたのは疑いようのない事実である。

企業向け貸出残高は一貫して減少し貸出利息収入を減らしたが、低金利で集めた預金で国債を買えばそれだけで大きな利鞘が取れた。ここ数年、銀行の保有する国債残高は増える一方だったが、それは銀行が安全に長短金利差(預金金利と国債金利の差)確保に走ったからに他ならない。

こうして上げた業務純益を不良債権処理に注ぎ込んでもおお足りなかったのが、またこの10年の銀行の姿であった。過去営々と築きあげてきた保有株・保有不動産の巨額含み益も処理に投じて失った。それでも足りず公的資金の支援も受けた。更に、本気(?)で不良債権を処理すれば、また自己資本不足に陥って深刻な金融危機が再発するかもしれないという。まるで蟻地獄ならぬ不良債権地獄だ。

空調の良く利いたオフィスの中で、鉛筆をなめなめ上司に覚えの良い稟議書を書いて、借り手に大きな顔をしてきた銀行員にとって耐えられないことかもしれないが、しかし現実には厳しい。彼らはこうした現実に挑戦する気概があるのだろうか、それとも為す術なく遁走するのであるのか。

先月一寸触れたが、地銀大手福岡銀行の不良債権処理の概要が判明してきて金融関係者に驚きを呼んだ。それを「福銀ショック」と呼ぶならば、このショックは津波のように金融界に広がっているに違いない。

一般に、地方銀行と呼ばれる地域に基盤を置く銀行は資産内容の健全度が比較的高い。それは経営力があつたからという訳ではなく、「地域の殿様」としてあくせくせずに儲けられる環境が用意されていたからに他ならない。同じ地銀でも首都

圏・関西圏の地銀は、他業態の銀行と同じくバブルに走って傷ついた。福岡銀行はその中間に属する地銀だと思われるが、ある意味で鷹揚な立場にあった大手地銀の一角の福岡銀行が「思い切った処理」に動いた意味は大きい。

福岡銀行はこの3月期決算で、担保不動産の評価額を最終処分見込額まで引下げ、今後新たに生じる可能性が高い大口貸出先向け損失を自己算定し、結果940億円貸倒引当金を積み増した。ここで注目されるのは、引当金の大きさではなく、最終処分見込額の算定方法である。

通常、不良債権にかかる担保不動産の評価は不動産鑑定士の評価をそのまま使うケースが多い(この手法が甘い担保評価を温存していると指摘する声がある)。福岡銀行は従来、鑑定士評価の70%部分は担保で保全されている貸出金として貸倒引当金を積んでこなかった。しかし「生ぬるい」と評価方法を変えたのだ。

福岡銀行は最終処分見込額を、要管理債権については任意売却基準(鑑定士評価の70%程度)から「競売による処分実績」(競売基準)に変えた。これによって任意売却基準より30%ほど担保価値が下がった。そして、破綻先・実質破綻先の不動産は「バルクセール基準」(担保不動産一括見切り処分)に変えた。これによって競売基準より更に30%以上下がった。結果としてバルクセール基準の対象不動産は、任意売却基準の半分以下(鑑定士評価の30%程度)となった。

こうした措置により不動産担保で保全されている不良債権額が激減した。福岡銀行は昨年9月末時点で開示不良債権は3,236億円あり、その内担保等で保全されている分が1,854億円あるとしていたが、今回の評価変更によりかなりの金額が保全されていない貸出金(無担保債権)となり貸倒引当金積増しを余儀なくされた。

福銀ショックは、不動産の担保価値が国家資格の鑑定士評価の50%以下になったことにあるのではない。不動産に胡座をかくことが最早不可能になったことを銀行員が漸く認識したことにある。そしてこの認識に従って処理したら堅実地銀も大赤字になったという現実にある。

この10年のように「銀行にやさしい時代」はもう来ないだろう。それを知ってか知らずか、地域の殿様もルビコン川を渡ったようだ。

Weekly Fax Report

《複製・転載等のご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: [http://www.hi-hp.ne.jp/smc\\_toyo/](http://www.hi-hp.ne.jp/smc_toyo/) Email: [smc\\_toyo@hi-ho.ne.jp](mailto:smc_toyo@hi-ho.ne.jp)

2001.4.14(第253号)